

# 備陽史探訪

NO.18

内容一新

●特集  
●備南に關わる人物たち  
●三部会活動報告

《発行》  
備陽史探訪の会 会報編集部  
(連絡先)  
川口町398-13  
種本実

— はじめに —  
 会報の発行を二月に一度にした  
 のは別に内容を充実させようとか  
 さんな殊勝なことではなく、た  
 く「毎月出すのはしんどいからし  
 と、いう理由にすぎなかつたのだ  
 世の中は、回数が多いと内容が薄  
 もりて、回数が多いと内容が薄  
 っ、とすばらしい内容になること  
 し、やうな、と、と、と、と、と、  
 い、や、や、や、や、や、や、や、  
 る、せ、や、や、や、や、や、や、  
 「せ、や、や、や、や、や、や、  
 人、な、く、ち、や、ぱ、り、ア、  
 し、な、く、ち、や、ぱ、り、ア、  
 稿、を、押、し、つ、け、ち、や、ら、  
 と、集、め、し、つ、け、ち、や、ら、  
 角、の、し、つ、け、ち、や、ら、

ける私のせいであり、もちろん口か  
 ら出まかせ、その場限りのつもりだ  
 ったのだが、これが何となくか  
 分の内に採択されてしまふところか  
 コワい。会報編集部のメンバーが  
 いか、「なりゆき」のみで人生を送  
 っ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、  
 変、不、満、ど、ある。は、や、り、の、大、学、入、試、風  
 と言、う、なら、出、題、者、の、意、図、を、良、く、把  
 握、し、て、い、な、り、し、も、の、が、約、二、名、お、る。  
 特、に、吉、田、左、京、亮、！、安、手、の、ク、イ、ズ、小、説  
 など、書、い、て、ま、か、つ、て、編、集、部、員、の  
 く、せ、に、何、を、聞、い、て、お、つ、た、の、か、と、言、い  
 たい。今、回、は、私、は、基、本、的、に、怒、っ、て、い  
 る。諸、説、ぶ、ん、ぶ、ん、！、あ、く、酒、落、ま  
 ぐ、だ、ら、な、い。特、集、の、始、ま、り、と、す、し

1984年3月11日

(2) 備陽史探訪

▲特集▼ 備南に突如る人物たち

「穴海」し住民を征服した  
「日本武尊」

加藤惣一

備前力の象徴とも見られる日本武尊  
によつて穴の海中心の住民は「吉備  
」のあとから帰属させられたのだと  
推測される。

日本書紀景行天皇二十七年冬十  
月の祭に、日本武尊が熊襲征伐を  
おえこの帰途「吉備」の「穴海」  
を渡ろうとされたところ、「悪神」  
が居たので、これを殺したとい  
う記事がある。大和朝廷に抵抗し  
た首領が殺され、民衆は帰属をや  
むなくさせられたのである。  
日本武尊へ小碓命は景行天皇  
の皇子であるが、母は孝靈天皇の  
皇妃「吉備」の祖と「穴」の若  
建吉備津日子の女、針向之伊那  
能大郎女である。古事記は記して  
いる。これらの天皇と吉備臣と日  
本武尊とを結びつけて考へる時  
大和政権に先きに帰属していた吉

は「吉備」とあるが、書紀以前古く  
は「吉備国」ではなかつたという伝  
承は昔の穴の海に北から穴出して  
跡は昔の穴の海に北から穴出して  
る小丘陵を中心とするもので、丘陵  
の頂部の北と南に古墳があり、昭和  
五十七年に北のカ一号墳が発掘され  
て被葬者の着用した短甲や副葬品が  
出土して注目されたが、現在丘の  
西面にある岡山神社は、祭神が吉備  
津彦尊と日本武尊と孝靈天皇である  
と伝承されている。この祭神たちは  
穴の海住民の征服者たちであつて、  
古墳に埋葬されてゐるような人たち  
ではない。神社とはさういふ性格を  
も持つのである。  
なお、この「穴の海」は、書紀で

<p>説を持つているが、割愛する。</p>	<p>井上氏族</p>	<p>井上良三</p>	<p>氏号と同じく、他の多くの苗字</p>	<p>南海の各道の郷名の他全国に少な</p>	<p>井上連井上宿禰などあり。これら</p>	<p>は河内国志紀郡の井上郷に基づく</p>	<p>系なり。近田井上氏は信濃に発祥</p>	<p>する。清和源氏は本朝武門の大宗に</p>	<p>この一族なれど各地各時代に発祥</p>	<p>しこの系脈は教流に及ぶ。以下</p>	<p>概略を示す。</p>
<p>清和天皇一尊純親王一源経基一清仲</p>	<p>一頼信一頼季一清実一光平一光長一</p>	<p>太郎長直</p>	<p>二郎経長</p>	<p>芸備地方の井上氏は九郎光清のち</p>	<p>衛門資明あり。毛利元就小早川隆景</p>	<p>守春忠幼名を弥四郎という。五百騎</p>	<p>年上月に死す。その子五郎兵衛景貞</p>	<p>三原に住し、子孫は年寄役を勤む。</p>	<p>孫相伝えて尾道に住す。家統は「丸</p>	<p>實永十六年に没せし井上采女を祖と</p>	<p>が当主井上良三氏は、それより数代</p>

（又の乱境、子孫西にあり）

1984年3月11日

(4) 備陽史探訪

経ること明治二十年頃、井上堅助氏が  
起こししより五代を経るものなり。  
余が家紋は「矢羽根」なりて疑向残る。

独白

吉田 五 京亮

「ここが蕨か。のどかな港だ。思へば遠くへ来たものだ。戦士の起る前は大番役ど二度都に来た他は、東国を離れる事はなかつた。それがこの数年というもの。戦士に明け暮れた諸国を転戦する毎日だ。」「  
「帝には気の毒な事をした。艱難辛

れを防ぎ頼朝侯の目指された御世に  
ごきるのは、源氏の正嫡たるこのわ  
ししかいないのだ。新田の田舎侍を  
ど源氏ではないわ。」「  
「帝の軍は兵庫で待ち受けていると  
使から報告があつた。だが我が軍は  
今勢いという味方がある。進むと  
今や十万を超へた。この勢を以て当  
たれば、何の義貞叔が支へきれよう  
か。」「

「苦の末北条の一念を滅し、念願の新政を始めた。だが、僅か二年でこのわしは打ち壊してしまつた。だが仕方がなかつた。帝の目指されたのは頼朝侯より前の政治なのだ。そんな時代が来れば、諸国数々の武士共は先祖伝来の所領を召し上げられ、腐此貴族や生息坊主共にこき使はれる昔の惨めな生活に戻つてしまふ。そ

「だが一つ言にかかるとは朝敵の汚  
いかた悪逆非道の親とともこ  
れを殺せば親殺しの汚名を浴び、親  
しい友も欠陥す。朝敵の汚名はそれ  
よりなお重い。この儘決戦に臨むの  
は何としても気がかりだ。だが帝は  
廃された先の帝より、我を官軍とな  
すという勅が強く落ちた。我を官軍とな  
すか？先の帝からの使とな。早う  
お通し申せ。」「

1984年3月11日

(5) 備陽史探訪

私の好きな人物記

桑原完二

今を去る百五十余年、天保元年の頃、一揆の犠牲者を出さぬ為、一身で全責任を負い、福山吉津坂、榎木峠の仕置場で打首となつた、小林嘉忠治伝記を讀み、私達の住む備南の地にも、此の様な人物が居られた事に、深く感銘を覚えて居ります。この人物誌を少し抜萃して見たらと思ひます。

嘉忠治は現在の神辺町道上字遠井、屋号を表庄屋、小林安右衛門の子として生まれ、父祖の名を襲名して安右衛門と称す。天保元年七月十六日大雨洪水有り、同二年秋にかけて、田畑荒れて大不作となり、十一月頃より諸々に一揆の起る兆が出来る。之を藩が察知し、故に農民百余名を捕われる。其の折、嘉忠治は一揆の起らんと

するのを未だに防ぐべく、東西奔走し、却つて其の行動を誤解され、天保二年十二月五日召捕られる。嘉忠治は備南五郡の多数の農民を助け、其の代り他の者を許してせうう様哀願し、之れが容れられて農民は一人残らず釈放される。嘉忠治は天保三年十二月二十六日打首となる。農民は藩を恐れ、欺願する者とならなく、刑場に消えて行つた嘉忠治を大恩人と心中で非礼を詫び、後年赤坂水呑の諸々に小祠を祀り、藩を憚る為嘉忠治の名は出さず、靈神様と崇め敬い、特に地元道上は藩の監視七月十六日大雨洪水有り、同二年秋にかけて、田畑荒れて大不作となり、十一月頃より諸々に一揆の起る兆が出来る。之を藩が察知し、故に農民百余名を捕われる。其の折、嘉忠治は一揆の起らんと

嘉忠治像を福山市西町藤本松山の彫刻にて造り、祠を大きく建立し、毎

年祥月命日十二月二十六日を祭日とし、故人をしのぶ、部落民一同で盛大にまつりごとを行なう。百五十余年経た今日でも、農民の恩人、小林嘉忠治の事を忘れる事なく、語り伝えて行く人々に、私は暖かい人の情けを感じます。

（編集部より）

一揆については、毎月第三水曜日午後七時より歴史民俗部会で勉強していただきますので、御参加をお願いします。

四月例会御案内

三和町について

立石雪夫

四月例会の見学地は三和町で担当は私になっていきます。今のところ主たる見学場所を次の様に考え

ています。

① 古屋城址 中世の山城は町内に500mの所ありますが、そのうち町の中心地の心齋にある古屋城が九鬼城に登って見ればと思えます。中世をとおして馬屋原氏が居城し、特に戦国期には、この地方は尼子、毛利の大勢力の接点地帯として絶えざる戦乱の中で、よく領地を守り生き抜いて来た所です。

② 岩屋寺 臨濟宗。寺伝によれば行基の創建で本尊観世音菩薩。行基の作と伝えられています。荒廃、再興を繰り返したが一五二七年九鬼城主、馬屋原正国が再興、菩提寺としました。現山門は九鬼城門を移したもので、いわれていきます。

③ 中津藩小島代官所跡 一七一七年設置。水野家断絶後幕領となつて、大領地のうち、神石郡中二カ村、甲奴郡中一カ所、安那郡中二カ村



計三十六か村二万石が直前中津藩領となり、代官所を小島に置いて支配し、磨藩置景まで続きました。④吉岡家 道路事情でバス往復可能であれば見学したいと思えます。吉岡家は楠正成の流れを汲むといわれる家で、後代水野勝成が流浪の時、二、三年この家に寄食していたといいい、土居のあとも残る。中世豪族の屋敷らしいものです。

⑤龜山八幡神社 小島にあり祭神は応神天皇ほか。現社殿は一七〇三年の再建。中津藩主の祈願所。

⑥清瀧神社 祭神は素盞鳴命。保食命、大物主命、郡内最古の天平年間七二九と七四九草創といひます。建築、彫刻共に立派なものです。

以上が今考えている主なものです。特にことは雪が稚魔をしてお事前の私自身の現地検討にもまらないうの才現状態なんです。そのあが域なんです。ところがおもしろい地域です。全国の中でも特殊でおもしろいのは、特に後期から終末期古墳については、我が々の住んでるこの備後地方に、この備後地方の主要な古墳について、勉強に入りました。周知の通り、四月例会へふるって御参加して下さい。

山口哲晶さん  
独白

（編集部より）  
四月例会へふるって御参加して下さい。

た行かれず。おります。実施の際にはぜひ御援助と御協力をお願い致します。期日は四月二十二日の予定になっています。

く日夜、熱き情熱を燃しながら勉強を続けております。

と、ところで、世間ではそろそろ春の声もチラホラと聞え始めて来た様子。やわらかい春の陽を浴びながら、ハイキングがてらに古墳めぐりなどをしてはいかがでしょうか。

ざっと頭に浮んだコースだけでも、神辺コース、加茂コース、家コース、芦田、新市コース、赤坂、松永コース、旧山陽道沿等々種々あります。当会でも五月頃に昨年同様に親子の古墳巡りを計画中ですが、春の古墳めぐりは誠に気持ちのいいものですよ。

尚、古墳についてよくお知りになりたい、勉強したり方は、古墳研究会の古墳講座に集いて下さればよろしいかと思っております。机上での勉強ばかりではなく、実地

見学も当然の事ながら予定していません。もし、何か質問があれば遠慮は不要、ごしごしお寄せ下さい。

へ編集部より

古墳研究会の勉強会は、毎月第一水曜日午後七時から行なっています。

① 山王山、茶白山、大坊、追山、御代等の諸古墳。

② 石鎚山、猪ノ子、楸道、一ノ井、牛、

③ 昨年行った処以外に、金環塚、北塚

④ 曾根田白塚、尾市

⑤ 松本、戸田山

⑥ イコーカ、スベリ石

等の古墳があります。



稽古不足を慕は往たない(注)  
一 歴史民研学習会悪戦記その1  
座長 東田東国

生来の「新らしもの好き」  
またま読んだ網野善彦氏の著作に  
すぐカブレてしま「中世史こそ  
今最も先端的な分野だ」と何の準  
備もなくして学習会など始めてみ  
ました。これがついでこの前まで「  
古代山城の研究こそ現在最も本質  
的かつ先鋭的な課題だ」と言い小  
らしていった人間と同一であるとは  
我ながらその余りの節操の無さに  
あきれております。  
月一回の学習会ももう三回目を  
終えました。最初はテキストに使  
っていた「一揆」のヘタな解説を  
やってあったのですが、「制度や  
社会構成の面をバツチり押さえた  
いの中世社会のイメージがはつき  
りしないのではないか」という参加

者の発言に「あろっ？」という感じ  
でうろたえ「うむそれでは中世社  
会をその経済的側面からのみならず  
根本から規定した荘園制的秩序を推  
えねばならぬな」と考え荘園制の勉  
強を始めたところ今度は律令制とい  
うものが解らなくなり、何だか「う  
むそれでは……」という度には  
「どんどん逆上ってゆき、一体いつに  
チョッピリ不安な今日この頃です。」  
(つづく)

(注1) おなじみ梅沢富美男の「夢芝  
居」の一節であり、学習会の度には  
前までアタフタしてゐる私の私には  
最もふさわしい。もちろん私のカラ  
オケレパートリーのひとつでもある。

編集長の一口談話

東国氏が歴史民研を創立したネライちのうか、  
ホウフは前々号の会報に述べられ  
ています。今回はホンネが出ていて  
結構でした。



備後戦国

一〇ノ五

今高野山城と上原氏

世羅郡甲山町の今高野山の背後に「今高野山城」と呼ばれる中世山城跡がある。その始築年代は不明であるが戦国時代永正年中（五〇四〜八三）から天正〇年までは和智氏の一族上原氏の居城であった。上原氏は和智豊実の長男実国が世羅郡上原村に住し「上原」氏を号したことに始まる。その三代豊持は毛利氏に属し、その幕下の有力大名として世羅郡一帯を支配し、その子元将は毛利元就の女婿であった。しかし、天正〇年六月、備中高松城合戦に際して、元将は毛利氏を見限り、黒田孝高の調略に応じて秀吉方に走るが結局、毛利・羽柴の和議により行き場を失い滅亡してしまふ。戦国喜劇の「コマである。猶、上原氏の平時の居館としては一キロ北方の平地に平城型式の「沼城跡」が残っている。

『城郭研究会編』

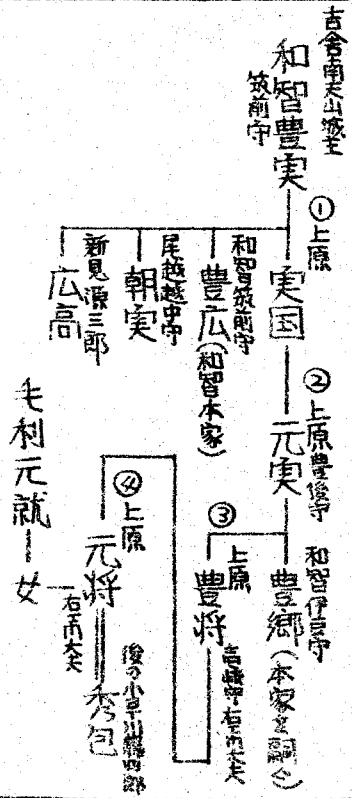
（附記）今高野山城は三月例会で見学予定

例会実行委員会より

三月例会の申し込みは早目に会長まで

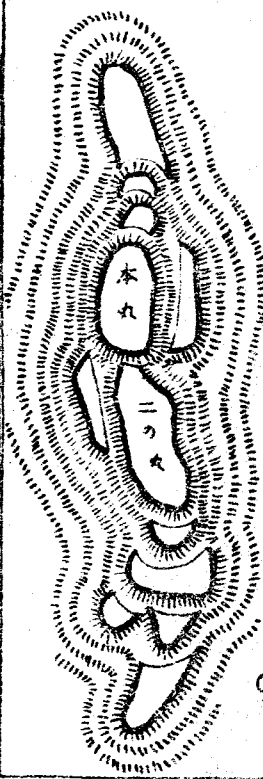
和智上原氏系図

（河津藩開闢録他より）



今高野山城跡

（山頂部平面図）



万 円 は 国 鉄 鋼 管 と 一 部 市 が 負 担 し	フ 操 業 に 備 え た 一 部 市 が 負 担 し	200 万 ト ン の 扱 い 能 力 を 持 ち 鋼 管 の	貨 物 量 年 25 万 ト ン を 大 幅 に 超 え る	年 6 月 に 落 成 し、 福 山 駅 の 取 扱 い	た。 貨 物 駅 は 39 年 11 月 に 着 工 し	に よ る 散 水 な ど の 対 策 を 実 施 さ し	元 で は、 公 害 対 策 委 員 会 を 結 成 し	庭 木 も 白 く な る 等 被 害 が 出 た 。 地	入 り 置 の 上 が ザ ラ ザ ラ に な り	工 事 車 両 の 砂 ぼ こ り が 民 家 の 中 迄	日 延 べ 6000 台 以 上 往 復 し た ダ ン ア 等	通 し た も の の 鋪 装 が 遅 れ た 為 一	駅 前 へ 続 く 鋼 管 道 路 は 39 年 末 に 完	景 を 一 変 さ せ る 工 事 が 相 次 いで 始	線 （ 鉄 道 ） の 起 工 等 そ れ ま で の 田 園 風	は 新 し い 道 路 や 貨 物 駅 、 鋼 管 引 込	鋼 管 の 誘 地 に 伴 い 地 元 引 野 町 で	わ が 町 日 本 鋼 管 と 共 に ③ ③
用 地 買 収 時 の 最 高 価 格 が 次 の 買 収 の	2 年 の 内 に 15000 円 に な る	年 迄 一 坪 15000 円 に な る	年 の 為 土 地 の 急 騰 と な り 山 林 が	二 は 1400 坪 の 急 騰 と な り 山 林 が	は 34 年 に 781 坪 の 急 騰 と な り 山 林 が	農 地 の 転 用 が 急 増 し、 農 地 だ け で も	用 地 の 建 設 等 の 用 地 と し て 山 林 や	山 駅 と な った。 こ の 他 鋼 管 の 従 業 員	の 強 い 要 望 に 応 じ て 旅 客 も 扱 う 東 福	長 56 幅 7 高 47 重 240 の 鉄 橋 が 架 設 さ	月 真 夜 中 を 利 用 し て 8 時 間 か け て	線 は 2 号 線 を ま た い で い る 為 41 年	後 に 夜 の 作 業 は 中 止 さ れ た 。 又 引 込	昼 夜 続 き 夜 眠 れ な い 等 苦 情 が 出 た 為	ル 工 事 に ダ イ ナ マ イ ト の 爆 破 作 業 が	も 同 時 に 完 成 し た が、 途 中 の ト ン ネ	た。 9000 万 円 で 行 った は 6430 ㎡ を 90 戸 か ら 2 億	

(12) 備陽史探訪

時最低価格となり、貨物駅の用地整備を中心とする区画整理に大きな障害となった。外国貿易港としての福山港は41年4月に開港し、出入国管理事務所、検疫所、海上保安所等の合同庁舎の建設用地として手城町天当神社沖が埋め立てられた。一方鋼管現場では41年8月の才一高炉火入れを目ざし日夜4000人を超える労働者が働いていた。犯罪や災害が多発した為防犯自治会が警察と土建業者で設立された。41年6月時では、39・40年の死者合計8人の倍16人が事故死する等災害が急増した。労働者の中には福山市に住民登録をしていなかった人も多く、又小規模の事業所では安全設備が不備だったことも事後に分る状態で役所の指導の徹底が求められた。

41年8月26日に才一高炉の火入れ式が行なわれ市内の各地で祝賀塔やアドバルーンが舞い上り企業城下の来賓を運ぶ為駅構内タクシ130台、大型バス37台がフル運転し、さらに尾道や笠岡倉敷からもチャーターしたり市内や尾道の一流ホテル旅館は満員となったと伝えられ、祝賀式の規模がいかに盛大であったかが想定されよう。

**次回予告** これまで三回にわたり主に中国新聞の37・41年の記事をもとに鋼管の誘地から才一高炉の火入れまでの軌跡を鋼管町・引野町を中心に述べてきました。今回は地元の人々に直接取材し、地元にとって鋼管とは何だったのかを追求してみます。

――編集後記――

今号の人物特集はいかががでしたか。次五月号もより面白い会報を目ごします。御協力よろしく。

(種本)

投稿歓迎。